

# 平成23年度 児童生徒の体力・運動能力調査結果の概要について

## 1 調査の目的

本県の児童生徒の体力・運動能力及び生活に関する実態を把握し、体育・スポーツ活動振興の基礎資料とするとともに、各学校における体育指導等に活用する。

## 2 調査の対象

小学校	225校(4.56年)	33,007 人
中学校	94校(1.23年)	32,173 人
高校	40校(1.23年)	23,228 人
合計	359校	88,408 人

参考 (本年の児童生徒の体格)

男子	小6	中3	高3
身長(cm)	145.23	165.92	171.31
体重(kg)	38.31	54.44	63.71

女子	小6	中3	高3
身長(cm)	147.30	157.00	158.24
体重(kg)	39.07	49.71	52.51

※H23本県学校保健統計調査より

## 3 調査の内容

### (1) 新体力テスト

- 握力
- 上体起こし
- 長座体前屈
- 反復横とび
- 20mシャトルラン持久走  
(小はシャトルラン、中高は選択)
- 50m走
- 立ち幅とび
- ソフトボール投げ(小)  
ハンドボール投げ(中高)

### (2) 生活調査

- 運動部や地域スポーツクラブへの所属状況
- 運動やスポーツの実施状況
- 1日の運動・スポーツの時間
- 朝食の有無
- 1日の睡眠時間
- 1日のテレビの視聴時間  
(テレビゲームを含む)

## 4 調査の結果 (体力合計点)

(1) 体力合計点の全体平均 ※体力合計点とは、新体力テストの8項目の記録を1点から10点に得点化し、合計したもの。

体力合計点 (点)						
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
全体平均(男女)	49.93	50.48	51.32	51.38	51.79	51.95

(小4～高3) 9学年

(2) 体力合計点の学年別平均

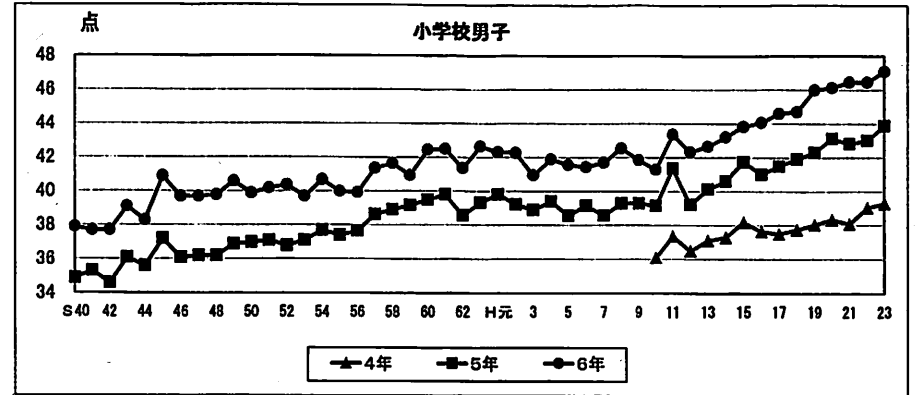
男子	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小4	49.16	49.40	49.88	49.67	49.98	50.34
小5	55.00	55.36	55.98	55.97	55.88	56.08
小6	60.61	61.13	61.88	61.91	61.91	62.01
中1	32.34	32.55	33.78	34.25	34.80	34.59
中2	41.46	41.91	42.41	43.45	44.10	44.13
中3	47.80	48.34	49.10	49.01	50.79	50.84
高1	48.89	50.23	51.01	51.08	50.76	51.85
高2	54.58	54.13	55.72	55.35	56.18	55.72
高3	56.50	57.21	57.43	57.88	58.21	58.79
平均	49.59	50.03	50.80	50.94	51.40	51.57

女子	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小4	49.27	49.23	49.88	49.49	49.46	49.85
小5	55.43	55.83	56.36	56.26	56.50	56.08
小6	60.43	61.00	61.74	61.63	61.78	62.12
中1	41.85	42.87	43.59	43.89	44.51	44.41
中2	48.32	48.65	49.63	49.77	50.02	50.24
中3	49.44	50.51	51.14	51.49	51.75	52.15
高1	47.16	48.35	49.82	49.87	50.13	49.89
高2	50.04	50.25	51.93	51.65	52.52	52.47
高3	50.41	51.71	52.52	52.35	52.88	53.72
平均	50.26	50.93	51.85	51.82	52.17	52.32

※網かけは前年より平均値が低下したもの

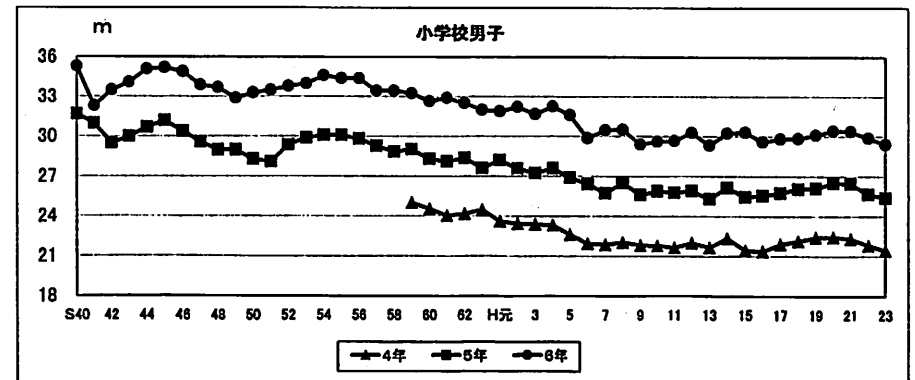
## (3) 特徴的な項目

### ①反復横とび (敏しょう性)



- 小学校男子の反復横とびは、測定値が47年間を通して上昇傾向という特長がある。47年間で約9点(回)増加している。
- 小学校女子、中学校男女においても、概ね同様の傾向がある。
- 本県は敏しょう性に優れている児童生徒が増加している。

### ②ボール投げ (投能力)



- 小学校男子のボール投げは、昭和40年以降、低下傾向が続いている。47年間で約6mの減少である。
- 中学校男子を除き、小中高女子においても、概ね同様の傾向がある。
- これまで投能力は、幼児期や小学生時代に子どもたちが草野球や川辺での水切り遊び、雪合戦などの外遊びを通して投げる動作を自然に身に付けてきたものであったが、近年、スポーツの多様化や外遊びの減少などにより、投能力が年々低下してきたと考えられる。
- 今後、投能力の育成には学校における取り組みの重要性がますます高まっていくものと思われる。

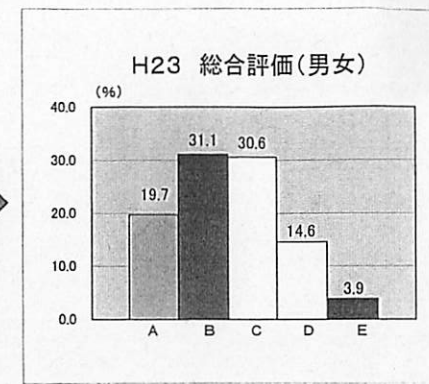
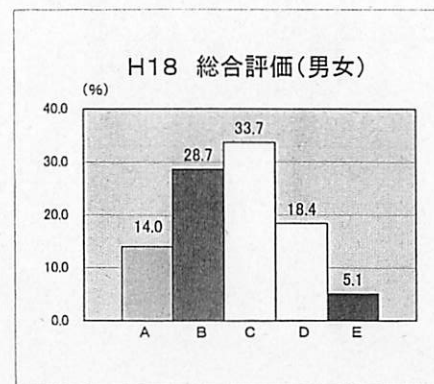
5 総合評価の状況 ※総合評価とは、新体力テストの項目の得点を合計し、総合評価基準表にあてはめたもの。

(1)【全体(男女)】

総合評価(段階別割合)					
年度	A	B	C	D	E
H18	14.0	28.7	33.7	18.4	5.1
H19	15.8	29.4	32.4	17.2	5.1
H20	17.9	30.7	31.5	15.5	4.4
H21	18.0	30.6	31.4	15.6	4.4
H22	19.0	31.0	31.3	14.8	3.9
H23	19.7	31.1	30.6	14.6	3.9

A 優れている  
 B やや優れている  
 C 普通  
 D やや劣っている  
 E 劣っている

※網かけは前年より総合評価が低下したものの



(2)【男子(小中高)】

総合評価(段階別割合)					
年度	A	B	C	D	E
H18	12.7	28.3	33.8	19.3	5.9
H19	14.1	28.9	32.6	18.3	6.1
H20	16.1	30.0	32.0	16.5	5.4
H21	16.1	30.7	31.6	16.3	5.3
H22	17.3	30.9	31.6	15.5	4.6
H23	17.9	31.3	30.7	15.6	4.5

(3)【女子(小中高)】

総合評価(段階別割合)					
年度	A	B	C	D	E
H18	15.4	29.2	33.5	17.6	4.3
H19	17.6	29.9	32.1	16.1	4.2
H20	19.7	31.4	31.1	14.5	3.4
H21	20.0	30.4	31.3	14.8	3.4
H22	20.6	31.0	31.1	14.1	3.1
H23	21.5	31.0	30.4	13.7	3.4

6 まとめ ※平成23年度は小5、中2を対象とした国が行う全国体力・運動能力、運動習慣等調査が中止となり、全国との比較ができないことから、本県の調査結果による分析を行った。

- ・体力合計点及び総合評価の結果からは、本県の児童生徒の体力・運動能力は引き続き上昇傾向にあることが分かる。
- ・多くの調査項目では、昭和60年頃を境として測定値が低下または停滞傾向を示し、その後の様々な体力向上への取り組みが行われるようになった近年から回復傾向を示すパターンが多い。しかし、校種や学年、性別によっては、低下傾向にある項目がある。
- ・生活調査のアンケートでは、昨年までと同じく、毎日朝食を食べる、週3日以上運動すると答えた児童生徒の体力・運動能力が高い傾向にあった。
- ・今後の取り組みについて、「ボール投げ」を例に挙げると、ボールを遠くへ正確に投げるためには、腕の振りや腰の回転などのバランスに加え瞬発力が必要であり、投能力の育成には、学校の体育の授業において、投げる動作を含んだ学習を適切に行うことが重要である。
- ・児童生徒の体力を継続して総合的に向上させ、低下傾向にある一部の項目を改善していくためには、小中高が連携した取り組みを図っていくことが重要である。